

校長通信

Morifun

<甲子園ベスト16!>

第103回全国高校野球選手権大会

皆さんご存じの通り、岩手大会決勝で花巻東を9-4で破り、4年ぶり11度目の甲子園出場を果たした野球部が、全国大会でも伝統の強打を発揮し、ベスト16まで勝ち進みました。コロナ禍そして雨天による相次ぐ順延という調整が難しい中で、全国制覇を目標に粘り強く戦い抜きました。

岩手大会 (7/7~24)

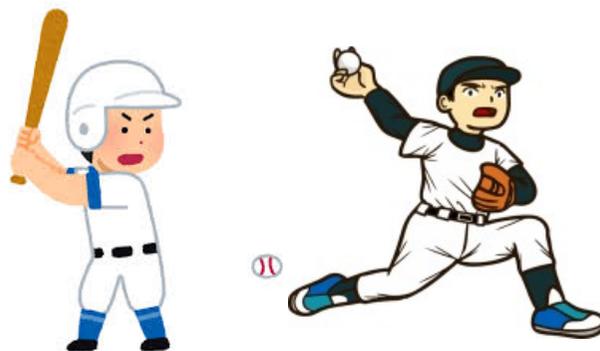
2 回 戦	11-4 (7回C)	盛岡工業
3 回 戦	11-1 (6回C)	黒沢尻北
準々決勝	7-4	盛岡中央
準決勝	12-4 (7回C)	一関学院
決勝	9-4	花巻東 ※4年ぶり11回目の優勝

全国大会 (8/10~29)

1 回 戦	鹿島学園 (茨城)	000 000 000 0
(8/16)	盛岡大附	000 304 00x 7
2 回 戦	沖縄尚学 (沖縄)	000 000 000 0
(8/22)	盛岡大附	000 200 02x 4
3 回 戦	近 江 (滋賀)	201 001 120 7
(8/25)	盛岡大附	002 000 011 4 ※ベスト16

甲子園で成長した選手たち

全国の強豪校と呼ばれるチームと渡り合ったのは持ち前の強打だけではありませんでした。県大会では1試合もなかった完封勝ちを2回も達成しました。特に2回戦の沖縄尚学戦では8回2死まで完全試合かと思わせる快投でした。これはピッチャー渡邊君、キャッチャー田屋君のバッテリーだけの力ではなく、堅実な守備で盛り上げた野手陣、さらには相手チームを徹底的に分析した3年生によるスカウティング・チームの縁の下の力もありました。まさに総合力での勝利でした。もちろん磨いてきた打線も力強さを発揮し、3本のホームランはそれぞれ試合を決定づける1打となりましたし、敗れはしましたが3回戦では相手を上回る15本ものヒットを打ちました。甲子園でも持てる力を十二分に発揮した堂々たる戦いぶりには甲子園常連チームかと思わせる雰囲気が出ていました。「努力は報われる」を体現した野球部の諸君に喝采を送ります。



選手団帰校式より(8/27)

田屋主将あいさつ

雨による順延やコロナによる制約の中で大変なところもありましたが、皆様のたくさんの支援そして応援のおかげでベスト16まで勝ち進むことが出来ました。まだまだ甲子園に滞在して野球をやりたかったのですが、また後輩たちが必ず(甲子園に)戻ると思いますので、よろしく願います。これからはまた一

高校生としての役割がありますので、それを全うして3年間しっかりやり切りたいと思います。

関口監督あいさつ

多くの制約、そして大会中にコロナで辞退するチームが出るなど、非常に緊張感のある生活、緊迫感のある中で選手は3試合よく頑張ってくれました。まだまだ全国制覇には力が足りないことも実感させられました。皆様のおかげで選手たちも一生懸命グラウンドで戦えたと思います。これから学校生活がまだ残っていますので、しっかり最後までやるのが、甲子園で戦ってきた選手たちの成長だと思っています。

校長あいさつ

野球部の諸君、お帰りなさい、大変お疲れ様でした、そして感動をありがとう。出発式の挨拶で述べた通り、岩手県代表としてのプライドを持って、そして他のチームよりも長く野球ができる幸せを噛みしめて戦ってきてくれました。コロナ禍の中での大会ということで色々な制約がありました。1試合目の鹿島学園戦の後、私も皆さんが宿泊しているホテルに1泊しましたが、皆さんが宿舎でも甲子園に出場できたことや目先の勝利に浮かれることなく「全国制覇」の目標に向かって淡々と行動していた姿が忘れられません。

皆さんは甲子園でもさらに成長を見せてくれました。全国の強豪を相手に県大会以上の戦いを見せてくれました。雨による度重なる順延で調整が大変だったと思いますが、甲子園での3試合は全てが素晴らしい試合でした。目標には届かなかったかもしれませんが、最後まで粘り強く戦う盛岡大学附属高等学校野球部の名を全国にまた知らせたことでしょう。

皆さんが活躍している間、多くの県民の皆さんは試合を心待ちにし、応援しました。みなさんは、チョット有名になって、チョット注目されています。野球少年たちにとっては憧れ、目標であります。そうした多くの方々の期待に応えるような学校生活、今後の人生を送ってくれることを期待して挨拶とします。

<8/17 始業礼拝より>

新約聖書 マタイによる福音書 5章9節

8月、平和を考える上で忘れてはならないさまざまな日があります。8月6日は広島に原爆が投下された日、9日は長崎に原爆が投下された日です。

私たちの住む岩手でも、空襲や爆撃がありました。盛岡でも二度、空襲があったことを皆さんは聞いたことがあるでしょうか。

一度目の空襲は1945年3月10日のことでした。東京大空襲と同じ日です。岩手県内でははじめての空襲でした。10日の未明に1機の戦闘機(B29)が来襲、盛岡駅近辺にたくさんの焼夷弾を投下しました。焼夷弾は木造家屋に火災を起こすことを目的として造られた兵器です。この爆撃により155戸の家屋が全焼、613名が罹災、5名が負傷、そして3名の方が亡くなっています。このとき回収された焼夷弾の数は400発以上あったそうです。

二度目の空襲は同年の8月10日。午前11時頃に艦載機(グラマンF4、F6)による爆撃を受け、盛岡駅近辺の国鉄盛岡工場、盛岡ガスなどが罹災しました。

国内外で、またこの岩手でも、多くの惨禍をもたらした戦争。様々な悲惨な出来事を経て、8月15日、私たちの国は敗戦を迎えました。

平和はヘブライ語では「シャローム」と言います。平和と聞くと、多くの方は「戦争がない状態」を思い浮かべるのではないのでしょうか。確かに、平和と最も対極にあるものが戦争です。

と同時に、平和は戦争がない状態だけを意味するものではありません。たとえ国家間に戦闘行為が生じていなくても、もしもある人が周囲から不当に傷つけられている状況があるとしたら、やはりそれは平和ではない状態だと言えるでしょう。

差別の問題、貧困や格差の問題、環境問題など、私たちの目の前はさまざまな課題・問題があります。これらのことを踏まえますと、平和とは「戦争がない状態」を

意味するのみならず、「一人ひとりが大切にされている状態」を指す言葉だと受け止めることができます。

私たちの生きる社会では現在、さまざまな場面で平和ではない状況が生じています。その平和ではない状況は、一人ひとりが大切にされていないことから生じているのだと言えるのではないのでしょうか。またそして、人が大切にされないことの最たるものが、戦争です。

先ほど一緒に《平和を実現する人々は、幸いである、／その人たちは神の子と呼ばれる》(マタイによる福音書5章9節)というイエス・キリストの言葉をお読みしました。イエス・キリストは、私たち一人ひとりに平和を実現してゆくための役割が神さまから与えられていることを語っています。

この言葉で前提となっているのは、私たちの生きる社会にはいまだ平和は実現されてはいない、ということです。私たち一人ひとりの働きを通して、平和は少しずつ、この地に実現されてゆきます。

自分の身近なところから、平和を実現してゆくために、自分にできることをしてゆきたいと思います。(8月17日 花巻教会牧師・鈴木道也先生)

<コロナ禍での盛附祭>

8月28日(土)に盛附祭が開催されました。当初は昨年度と同様に生徒のご家族だけには公開をと予定していましたが、県内市内での感染拡大を考慮して、一般公開は全て取りやめとしました。また、密を避けるために全体の行事は避け、文化部によるステージ発表とクラス企画催事の参観を半分に分け、午前の部と午後の部で入れ替える二部制を実施しました。

ステージ発表では吹奏楽部から始まり、「星影のエアール」や「なないろ」など朝ドラの主題歌などを演奏、顧問である村井先生もトランペット演奏を披露しました。音楽部は部員が全員一輪の花を抱え「花が咲く」を熱唱(いつ聴いても目頭が熱くなります)、そこからの久保君のコスプレによる「キューティーハニー」にはまいりま

した。軽音楽部は4つのバンドが「マリーゴールド」から「恋人ごっこ」とスローテンポからロックまで熱い演奏を行いました。こちらもトリで顧問の佐藤先生がギターとボーカルで参加。ダンス部はソロから最大9人の全6組がパフォーマンスを披露してくれました。ノリノリで楽しそうに踊る姿にこちらも思わず動き出したくなりました(曲名がわからなくて申し訳ない)。最後はさんさ部が華麗な舞を披露、太鼓と笛と踊りが見事にシンクロ。2年連続でさんさ踊りは中止になりましたが、今年も太鼓の響きが聴けて幸せを感じました。各部の生徒からこのコロナ禍の中でも演奏する機会を設けてもらったことに感謝する言葉がありました。参観者も私語をせず拍手や手拍子をしながら参加してくれました。

全体企画(生徒会)のスタンプラリーは福引付きで静かに盛り上がっていたようです。各クラスの展示や催事は縁日ものが多かったようです。普段なら近所の子どもたちが来て楽しんでくれるのですが、今回は生徒同士が射的などの腕前を披露していました。その他にも七宝焼きやプラネタリウム、巨大化した文房具の展示、そして「少子高齢化はなぜだめなのか?」という渋いテーマでの発表もありました。

今回のテーマである「新たな扉を〜今届けられる全て〜」には、コロナ禍ですべてが変わっていく中、今できることを、今できる新たな形で発信していこうという思いが込められていました。まさに新しい形での盛附祭となりました。でも来年度こそは従来の形でできれば…それが一番の願いでもあります。

盛附祭とは直接関係がありませんが、本校演劇部が県北・北盛岡地区高校演劇研究発表会で優秀校4校に選ばれ、10月に行われる県大会への推薦出場が決まりました。斎藤祥之介君による脚本「宇宙戦艦ザウスポロン」、県大会が楽しみです!

